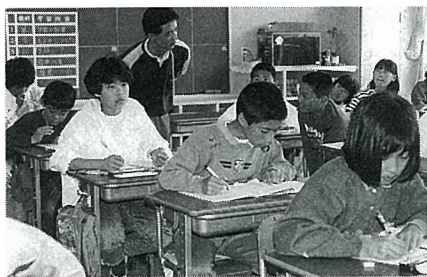


児童・生徒の作品コーナー



日吉小学校児童の紹介



『いちごがり』

※いちごがりに行つて、たくさんおいしいいちごを食べているところをがんばって描きました。



1年 ほりこしゆうきくん



『にじのはし』

※山の色をぬるところや花をかくところがたいへんでした。



2年 森 聡美ちゃん



我が家の家庭教育

入 小野満 恭子

「ただいま」「やろうぜ」。「早く、早く」元気な声で小学校2年の息子が帰つて来ます。と、同時に、2、3人、友だちが上がりこんで来ます。言わずと知れたファミコンです。

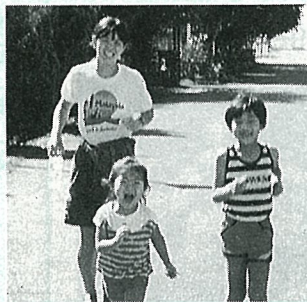
我が家は夫と私、小2の長男と3歳半の長女の4人です。夫の实家は群馬、私は広島なので2人の子供はおじいちゃんおばあちゃんに会うのが年に1回か2回。でも彼らにはたくさんのおじいちゃんおばあちゃんがいまいます。今住んでいる家を賃して下さっている大家さんは、月に数回、船橋から泊まりに来てくれてほんとうの祖父母のようにめんどろを

見てくれてあります。その他、来れば必ず泊まっていく私たちの友人は、お兄さんもお姉さんもおじいさんもおばあさんもお供たちにとつては親戚なのです。だから皆が子供たちの世話をやき、私たちも友人の子供たちのめんどうを見ます。

やりたいことを……。

そういう意味では大家族なのかも

れないと思うことがあります。仕事を中心の生活なので、展覧会、スケッチ旅行と、親の都合でどこへでも連れて行きます。これが親の仕事なんだという事は認識しているようで、そう文句も言わずについて来ます。遊び道具も何



▲お正月マレーシアで

りたいた事は思いきりやらせてあげたいと思います。だから今、ファミコンだつてやりたいたならうんと上手になれと言っているのです。たとえそれで目が悪くなりメガネをかける事になつても、やりたいだけやった満足感や自信は子供の心に大きく残るのではないのでしょうか。大人になつて、何が生きていく指標かと言うと『自信』だと思つたのです。今自分がいつたい何をやりたいたのかから青年が増えているのを見るにつけて、制限された結果ではと、その思いを強くしています。常に新しいものに向かつて進んでいくこと、いつも世界に目を広げていること、これが私たちの仕事のテーマで、それを実行しようとする苦しい私たちを見ることが、言つてみれば、ウチの子育てなのかもしれません。